

## 検証保育・検証授業1 富名腰由紀（八重瀬町立東風平小学校）

去る1月20日(水)に、後期教育研究員 富名腰由紀教諭の検証授業を八重瀬町立東風平小学校で行ないました。

検証授業は、小学校5年算数「数量関係」の領域「百分率とグラフ」比べて考えよう(2)で実施されました。百分率や歩合、割合などの学習を活かして、弁当の特売の条件を読み取り、どちらの弁当を買う方がお得なのかという問題の考え方を考えさせました。まずは、絵でイメージさせてから問題文へ移行し、自力解決の時間を設定しました。殆どの子が自分なりの考え方をノートに立式し、解答することができました。次に、少し考えさせる問題を設定し、自力解決→協働的な学習と展開され、子ども達が自分の言葉で、グループの友達に考え方を一生懸命説明している姿が印象的でした。

指導講師の井口憲治教頭先生(大里南小学校)からは、子どもにも意識して欲しい割合を大きく表示したことは子ども達も良く捉えており、1つめの問題は出来ない児童が4名だけで、よく解答していたと思います。アナライザーによる意思表示も子ども達が良く理解して活用していました。教えることと考えさせることをしっかりと区別することや、単元末には、子ども達を信頼して、子どもから解を引き出して、出番を増やしていく工夫が大切であることやこれからの課題として、授業の終わり3分間でその日の授業の評価ができる問題を設定すること、つまづいている児童のフォロー、協働的な学習のマナーの指導などがあげられました。甲斐達二校長先生をはじめ、東風平小学校の先生方が熱心に授業参観なされていました。全校体制で由紀教諭の研究を支えてくださっていることが感じられる検証授業でした。連携推進大学の琉球大学からも、川上一准教授と琉大生9名が参加してくださいました。

この検証授業をスタートにこれから後期教育研究員の検証保育・検証授業を予定通り実施していきます。

## 【研究テーマ】

〈小学校算数〉

数学的な思考力・表現力をはぐくむ指導方法の工夫  
～互いの考えを伝え合う協働的な学習活動を通して～

## 【研究仮説】

「数量関係」の領域において、お互いの考えを伝え合う協働的な学習活動を取り入れることで、数学的な思考力・表現力をはぐくむことができるであろう。

- (1) 自分の考えを言葉や数、式、図などを用いて表現し、問題を解決させる。(思考力)
- (2) 協働的な学習活動を通して、児童同士がかかわり合いを意識し、他者に考えを説明したり、質問したり、させる。(表現力)



写真1 検証授業の様子



写真2 授業研究会



写真3 東風平小学校にて

## 検証授業を終えて(富名腰由紀 教諭)

授業当日、学校に向かうと校長先生が駐車場の確保やゴミ拾いをしてくださっていて、全校体制で私の研究に協力して下さっていることに改めて感謝の気持ちでいっぱいになりました。授業の始めに、子ども達と学習用具のチェックや学習規律について少し確認し、じゃんけんゲームで緊張をほぐして、本時を迎えました。授業では、これまでの学習を活かして2つの条件からどちらの弁当を買う方がお得なのか考えるという問題をまずは、絵でイメージさせてから問題文へと移りました。視覚に訴えることで子ども達の「解きたい」という気持ちが伝わってきました。自力解決では殆どの子が自分なりの考え方をノートに表現することができていました。ステップを踏んでの第二弾は、少し考えさせる問題を設定し、自力解決→協働的な学習と進めていきました。やはり、難易度がアップしたことで自力解決ができていない子が10名ほどいましたが、子ども達なりに自分の言葉で、グループの友達に一生懸命説明している場面がたくさん見られました。研究会では、井口指導講師から、教えることと考えさせることを区別することや、単元末には子ども達からどんどん解を引き出していく工夫が大切であること、そして、これからの課題として、授業の終わり3分間でその日の授業の評価ができる問題をさせること、つまづいている児童のフォロー、協働的な学習のスキルアップなどやるべきことを確認することができました。今回の検証授業で終わりではなく、継続して協働的な学習を研究できるようにしていきたいと思っています。